

# 病害虫発生予察特殊報(第3号)

平成28年12月28日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：キュウリ灰白色斑紋病（仮称）

病原ウイルス名：Watermelon silver mottle virus (WSMoV)

作物名：キュウリ

## 1 発生経過

- (1)平成28年9月中旬から10月上旬にかけて、県東部の抑制キュウリ栽培ほ場において、葉の萎縮、モザイク、黄化えその症状や果実の奇形が発生する株が見られた。
- (2)当センター生産環境部での検定植物への接種試験およびRT-PCR法によって増幅したDNA断片の塩基配列解析から、スイカ灰白色斑紋ウイルス(WSMoV)に感染していることが確認された。
- (3)本ウイルスはこれまでに沖縄県、鹿児島県(奄美大島)で発生が確認されている。

## 2 病原ウイルスの性質および伝染

- (1)病原ウイルスはトスポウイルス属に属し、ミナミキイロアザミウマにより媒介される。他種アザミウマ類による本ウイルスの媒介については不明である。なお、本ウイルスによる種子伝染および土壌伝染は認められていない。
- (2)沖縄県では、スイカ、キュウリ、トウガンなどのウリ科作物、ツルナ、タバコで自然感染が確認されている。
- (3)接種試験では6科22種で感染することが知られている。上記作物以外にウリ科ではメロン、西洋カボチャ、ヘチマなど、その他の作物では、トマト、トウガラシ、ジュウロクササゲなどでも全身感染が確認されている。

## 3 病徴および被害

病徴は始め新葉が萎縮し、落下傘葉の発生が見られ、その後果実の奇形が発生する。さらに症状が進むと葉にモザイクや黄化えそなどの症状が発生し、キュウリ黄化えそ病(MYSV)の症状と類似する。また、果実に退緑輪点を生じることがある。



a: WSMoV発病株

b、c: 葉の奇形やモザイク  
症状

d: 果実の奇形

#### 4 防除対策

- (1)アザミウマ類、特にミナミキイロアザミウマの防除対策を徹底する。
- (2)施設栽培ではアザミウマ類の施設内への侵入を防ぐため、施設開口部に防虫ネットを展張する。
- (3)育苗は、施設開口部に防虫ネットを展張した育苗専用の施設を利用するか、育苗場所に防虫ネットをトンネル被覆し、アザミウマ類の侵入を抑制する。また、育苗期から定植時の灌注や粒剤の処理を徹底し、栽培初期からのウイルスの感染を防ぐ。
- (4)発病株は二次伝染源とならないよう、発見次第抜き取り、ほ場外に持ち出し、埋没等により適切に処理する。
- (5)施設栽培では、栽培終了時にハウスを密閉処理しアザミウマ類を死滅させる。密閉処理前にキュウリを抜根し短期間で株を乾燥させる。
- (6)アザミウマ類は雑草にも寄生するため、施設内および施設周辺の雑草を除去する。
- (7)薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け必ずローテーション防除を行う。主な登録薬剤の例は次表のとおり。

表 キュウリのアザミウマ類、ミナミキイロアザミウマに登録のある薬剤例

使用方法	薬剤名	IRACコード
土壌施用	ダントツ粒剤	4A
	ベストガード粒剤	4A
	アルバリン又はスタークル粒剤	4A
	プリロツソ粒剤	28
株元灌注	モベントフロアブル	23
	ベリマークSC	28
散布	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤	4A
	スピノエース顆粒水和剤	5
	ディアナSC	5
	アファーム乳剤	6
	カスケード乳剤	15
	アファームエクセラ顆粒水和剤	6+15
	プレオフロアブル	UN
	コテツフロアブル	13
モベントフロアブル	23	

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部  
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
 TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>